

街かど安心安全ラジオ事業

県域放送局版

# 飲む防災<sup>®</sup> 飲む防犯<sup>®</sup>

地域の防災情報・防犯情報を自動販売機から街行く人に直接伝える



地震・津波・噴火  
ミサイルなどの  
**緊急情報**

都道府県からの  
急を要する  
**お知らせ**

火事・事件  
事故など

子供やお年寄りの  
**行方不明**

不審者  
情報

**紹介動画**

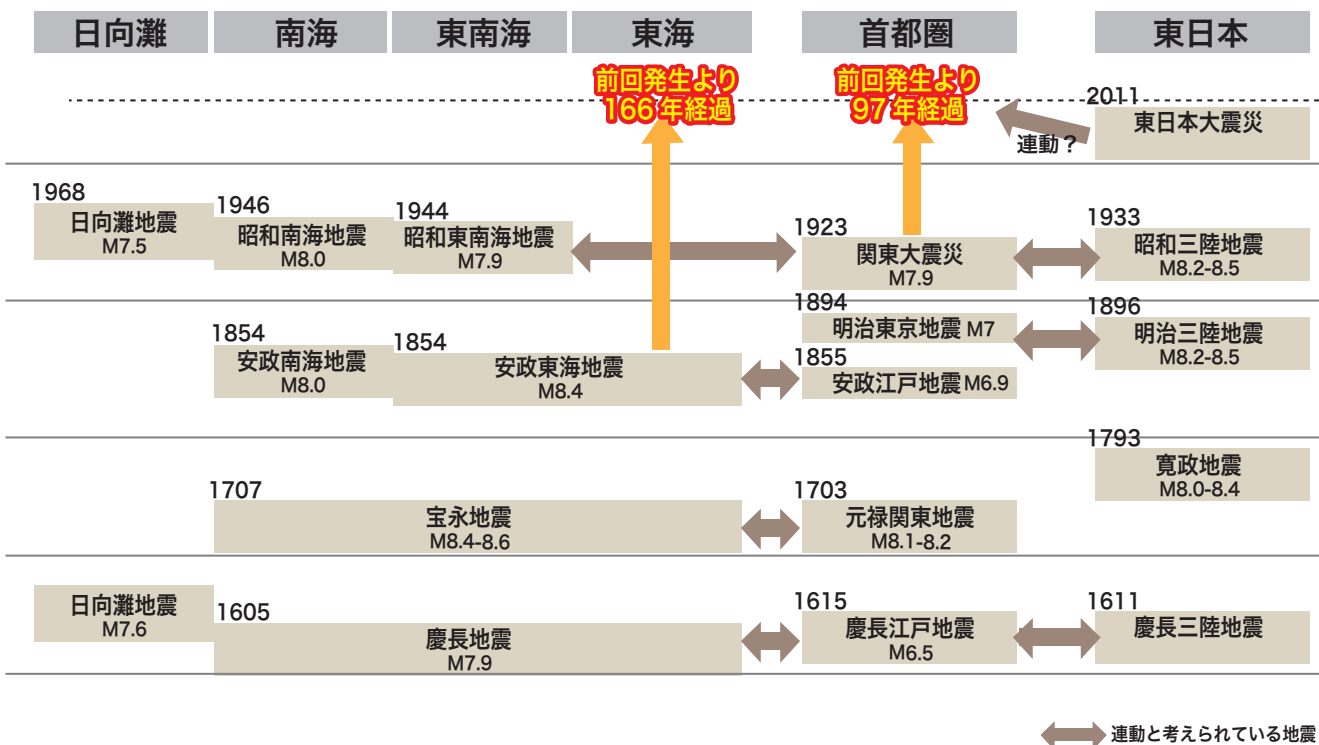
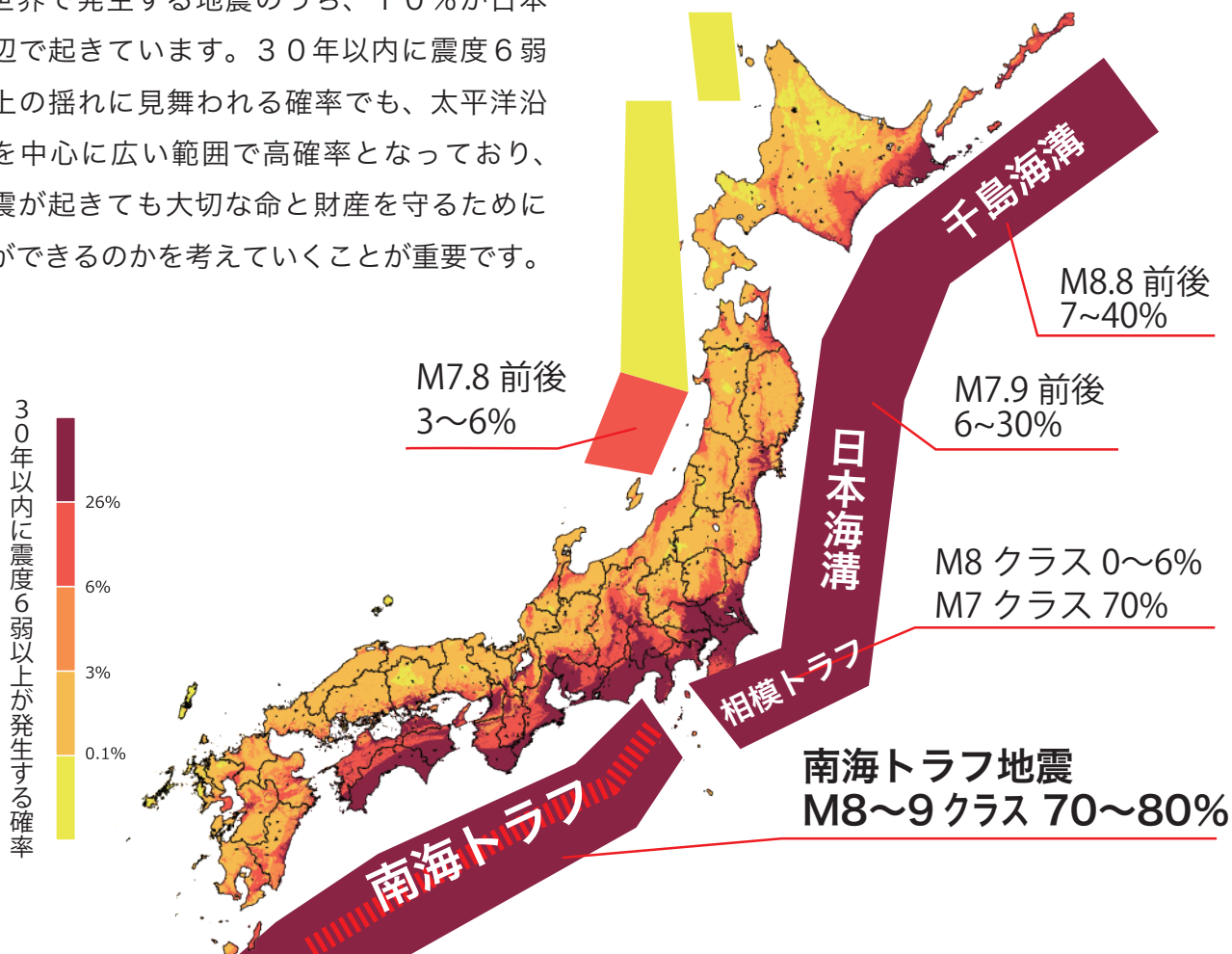
こちらから説明動画  
をご覧ください  
(約3分)



**SUZU  
COMI**  
Suzuka Community

# 災害の多い日本

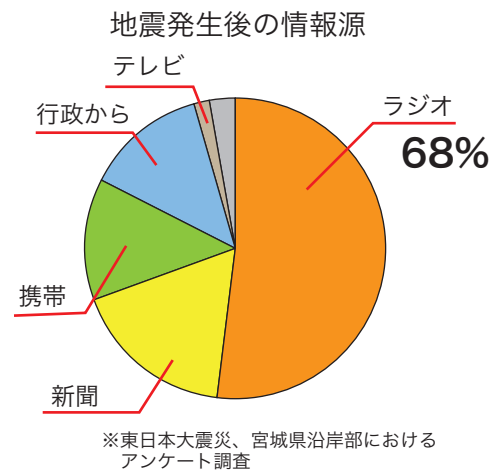
世界で発生する地震のうち、10%が日本周辺で起きています。30年以内に震度6弱以上の揺れに見舞われる確率でも、太平洋沿岸を中心に広い範囲で高確率となっており、地震が起きても大切な命と財産を守るために何ができるのかを考えていくことが重要です。



↔ 連動と考えられている地震

# 災害時はラジオが「命綱」

乾電池でも動作し自動車にはほぼ 100%搭載されているラジオは、大きな災害時には最後まで残るメディアとされています。実際に東日本大震災では、災害発生直後に利用したメディアとしては、ラジオが68%と最も高く、また発生後1週間で見ると、ラジオは76%へと上昇しています。



そのラジオを活用し、自動販売機から取り付けたラジオから街行く人に緊急情報を伝達する、街かど安心安全ラジオ「飲む防災、飲む防犯」事業。この事業は当初、全国のコミュニティFMにてスタート致しました。コミュニティFMは阪神淡路大震災をきっかけに全国に順次開局しており、放送エリアが市町村域に限ることから地域密着のお知らせを伝える手段として期待されています。しかしコミュニティFMの全国カバー率はわずか19%に留まっており、また電波は20Wという限られた出力のため、放送エリア内であっても電波が届きにくいという欠点もあります。

## コミュニティFM方式の問題点

- ・コミュニティFMが全ての市区町村をカバーしていない  
全国1,718市町村に対し、コミュニティFMは335局(2021年3月現在)  
=全体の約19%の市町村しかコミュニティFMが開局していない
- ・コミュニティFMの限られた電波出力(最大20W)では放送エリア内でも電波が届かない地域が多く、建物の中では殆ど受信できない

## 県域放送局方式のメリット

- ・日本全国、ほぼ全てのエリア(都道府県)をカバー
- ・出力が大きく、広いエリアで聴取でき、屋内でも良好に受信可能  
コミュニティFMの20Wに対し、**県域放送10kW=10,000W**

この防災防犯ラジオ付き自動販売機を全国へ普及させるために、**県域放送局**を利用した仕組みもスタートさせました。県域放送局は名の通り都道府県単位をカバーするラジオ放送局であり、都市部から山間部まで広くカバーしています。

近い将来には確実に起こる大災害に備え、この**県域放送局版「飲む防災・飲む防犯」**の普及に努めて参ります。

# 飲む防災、飲む防犯自販機の特徴

街中であって普段から電源に接続されている「自動販売機」に防災ラジオを取り付け、ラジオ局が放送する緊急情報を街中に流すことができる仕組みが、**街かど安心安全ラジオ事業「飲む防災、飲む防犯」**です。

莫大な予算で設置される防災スピーカー（同報行政無線）に比べ、すべて民間の力で設置普及でき、また駅前や商店街など人の集まる場所に設置できるメリットがあります。

	防災スピーカー	ラジオ受信機	飲む防災® 飲む防犯®
大規模災害時の緊急放送	◎	○	◎ 内蔵電池により約2日間放送可能
防犯のお知らせ	—	○	◎ 犯罪の起きやすい街角に直接放送
犯罪抑止力	—	△	◎ 不審者情報が放送されると抑止力
暴風時の聴取性	×	◎	◎ ビルのロビーや駅構内などで放送
設置コスト	×	△	◎ すべて民間のためコストはゼロ

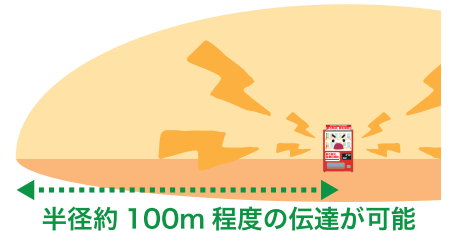
## ● 停電に強い

バッテリーを内蔵しており、停電が発生しても**約2日間**、情報を伝達可能。中間のケーブルや中継器を必要としないラジオだからこそ、災害時に効果を発揮します。



## ● 広い範囲 … 半径 100m

自販機を設置した場所の半径約100メートルの範囲に音声を伝えることができます。(ボリューム最大時)



## ● ボリューム機能

設置箇所に応じて音量を調整可能です。屋外、屋内どちらにも設置可能で、病院の待合室や企業のロビーなど普段人が多く集まる場所に設置が効果的です。



## ● 費用負担ゼロ

自動販売機の設置、管理、運営、取り付ける防災ラジオ受信機はすべてベンダー会社が負担します。放送局にも設置先にも負担を掛けることなく、置くことができます。





## 聞

### 街の自販機から緊急時放送



鈴鹿ヴォイスFM運営会社社長 加藤 正彦さん(57)

鈴鹿市のコミュニティFMラジオ局「鈴鹿ヴォイスFM」が、災害時や防犯に役立つ情報を発信するラジオ付き自動販売機を発売し、設置拡大の取り組みを本格化させた。飲料販売と同時に、安心・安全につながる放送をする。社会貢献を兼ねた新たなビジネスモデル。全国のコミュニティ局から問い合わせが相次ぐ。開発の経緯や展望を、同局を運営する「鈴鹿メディアパーク」の加藤正彦社長(57)に尋ねた。

― 自販機の特徴と利点は。

自販機上部に各局の放送を受信するラジオを備えた。災害時の物資や交通機関、道路の状況をはじめ、不審者やひったくりへの注意喚起、行方不明者捜索の協力依頼など、役所や警察、消防からの情報発信する。飲料の売上金の一部がメーカーから各局に支払われ、自販機設置者には手数料が入る。

― 一二月下旬の発表から四月経過。手応えは。

## ラジオでいのちを守る

東海地区の九局を含む全国のコミュニティ局十局の賛同を得て設置拡大を図っている。毎日ように時放送で自治体と連携し、災害発生問い合わせがあり、北海道ラジオ普及にも努める。情報以外は対象外だった。

― 緊急時に屋外で情報を受け取る手段は、自治体の防災行政無線のスピーカーがよくなるが、聞き取りにくく、災害発生時、情報以外は対象外だった。

― 全国に呼び掛ける意味は。

― 設置区域が狭いコミュニティ局は全国に三百ほどあるが、広告収入は限られる。地域の安心・安全をサポートする役割を担う新たなビジネスモデルとして全国的な高層へ働き掛けを強める。三年後に東京五輪・パラリンピックを控える。設置が広がり、世界でも治安が良いと言われる日本のイメージアップに貢献できればうれしい。

― かみ・まゆみ 1960年生まれ。不動産業などを営む傍ら、2015年から「鈴鹿メディアパーク」代表取締役社長。全国のコミュニティ局で組織する「日本コミュニティ放送協会」の東海地区監事も務める。

## 三重版



柏葉あじさい  
無所属 奥山勢津子  
(津市高茶屋)

三重総局(〒514-0005)	津市鳥居町227-2	059(228)2121~4
FAX 059(225)6213		
四日市支局 059(352)3108		
FAX 059(353)7239		
伊勢支局 0596(23)3511		
FAX 0596(23)3521		
松阪支局 0588(21)6148		
FAX 0588(26)2207		
伊賀支局 0585(21)3241		
FAX 0585(24)4310		
尾鷲支局 0587(22)0192		
FAX 0587(23)0771		
鈴鹿通信局 059(382)0314		
FAX 059(382)3899		
桑名通信局 0594(22)0235		
FAX 0594(23)6771		
鳥羽通信局 0599(25)2063		
FAX 0599(25)2090		
熊野通信局 0597(85)2263		
FAX 0597(89)4801		
龜山通信部 0585(82)0169		
FAX 0585(82)0870		
名張通信部 0595(83)0541		
FAX 0595(84)0146		
菟野通信部 059(393)4158		
FAX 059(394)5064		
志摩通信部 0599(43)0154		
FAX 0599(44)0028		
紀伊長島通信部 0597(47)0724		
FAX 0597(47)1487		
新宮支局 0735(21)3737		
FAX 0735(21)3738		
ニュースは上の電話へ		
読者センター	052(221)0800	

広告のお申し込みは  
広告部 三重アドセンターへ  
津 059(221)2530

平安会館  
0120-999-444

6/25(日) 10:00~14:00  
権川青基 園芸委員会



NHKおはよう日本



日テレ系列(宮城テレビ・BS日テレ)

### 防犯・防災情報 街の自販機発信

FM鳥取 ラジオ付き3カ所に

鳥取市を中心に地域情報を発信しているコミュニティFM局「FM鳥取」が、防災・防犯ラジオ付き自動販売機の運用を始めた。県内では初めての取り組み。自販機を活用して、地域の安全・安心に役立てたいという。

FM鳥取は2017年3月、防災・防犯ラジオ付き自動販売機の運用を開始した。県内では初めての取り組み。自販機を活用して、地域の安全・安心に役立てたいという。

FM鳥取は2017年3月、防災・防犯ラジオ付き自動販売機の運用を開始した。県内では初めての取り組み。自販機を活用して、地域の安全・安心に役立てたいという。

### 「危険!」自販機が発信

鈴鹿 地元FM提携 防災ラジオ機能

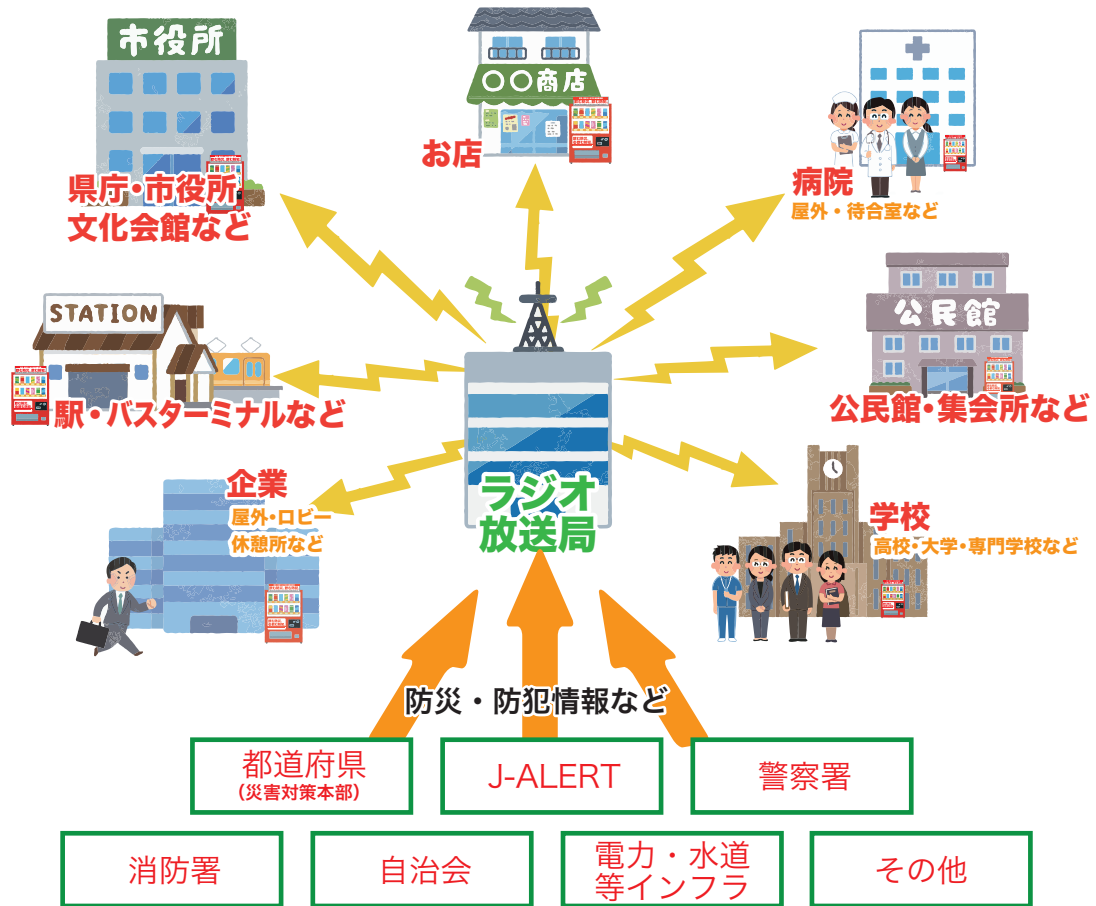
鈴鹿市を中心に地域情報を発信しているコミュニティFM局「鈴鹿ヴォイスFM」が、防災・防犯ラジオ付き自動販売機の運用を始めた。県内では初めての取り組み。自販機を活用して、地域の安全・安心に役立てたいという。

鈴鹿市を中心に地域情報を発信しているコミュニティFM局「鈴鹿ヴォイスFM」が、防災・防犯ラジオ付き自動販売機の運用を始めた。県内では初めての取り組み。自販機を活用して、地域の安全・安心に役立てたいという。



# 設置イメージ

屋内外問わず、人が多く集まる場所に設置することで、市民へ重要な情報を伝達することに役立ちます。



※ どのような情報を放送を行うかは、それぞれの放送局の放送指針や局と都道府県との協定等に基づきます。



動作イメージを動画でご覧頂けます。  
スマホで下のQRコードを読み込んで  
アクセスしてください。



## ◆ インバウンド対応

コロナウイルス終息後、増加するであろうインバウンドへの対策にも有効です。15年に国が発表した「緊急地震速報の多言語表現辞典」や、16年の「情報難民ゼロプロジェクト」等でも言われている、非常時の外国人への情報伝達手段としての活用も期待できます。

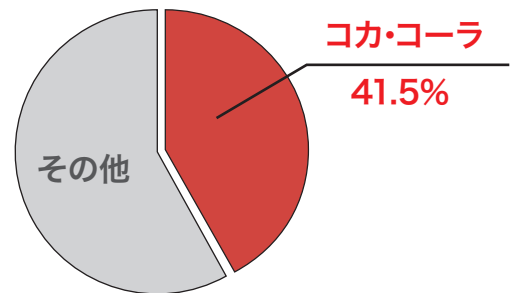


# 全国への設置普及に向けて

全国どこにでも置けるという県域放送局版の最大のメリットを生かし、今後全国へと展開して参ります。もちろんコミュニティFM版の市町村に関するきめ細やかさも生かしながら、適材適所の導入を進めて参ります。

## ● 設置台数目標

清涼飲料水の自動販売機（牛乳や酒の販売機を除く、ジュースの販売機）は約212万台。このうち88万台がコカ・コーラ自販機で、シェアは41.5%に上っています。当事業では圧倒的なシェアがあり、全国どこにでも設置が可能なコカ・コーラ社の協力の下、設置を普及して参ります。またコカ・コーラ以外の飲料メーカーにも対応しており、設置先の意向で選ぶことも可能です。



## ● 全システムに対応可能

すでに防災ラジオが導入されている局であっても、すべての防災ラジオシステムに対応可能です。

- DTMF方式の受信機導入済み
- Comf i s型も導入予定

⇒全てのシステムに対応可能



メディアトライ製



リズム時計工業製



Comf i s型



お問

株式会社 鈴鹿コミュニティー

〒513-0825 三重県鈴鹿市住吉町8947

URL: <http://nomu-bb.com/>

☎ 059-375-2255

FAX: 059-375-6633

E-mail: [info@nomu-bb.com](mailto:info@nomu-bb.com)